

今回 2 人の方が新たに加入され会員は 6 3 人となりました。

病名を知らされたばかりの時は、みんな失意のどん底です。私もそうでした。

そのころ私が常に思っていた言葉があります。

『君よ朝の来ない夜はない』

これは扇屋正造さんの言葉です。右も左も真っ暗、闇が深ければ深いほど夜明けは近いのです。

きっと夜明けはやってきます。

今こそ我慢の時です。すばらしい日の出は必ずでます。共に頑張りましょう。

< 第 1 5 回 ほほえみの会 >

末梢血幹細胞移植で最近新しい方法が研究され、試験的に導入されており、注目を浴びています。

「CD34 セレクション」と呼ばれるこの方法は、体の中で血液を作る、幹細胞の表面にある「CD34」幹細胞を磁石で取り出し移植するというもので少量の移植で効果が上がるということのようです。

神経芽細胞腫に特に効果があるということで、実際移植をされた方も、最初の移植の時より下痢も、発熱も少なく楽だったということでした。

楽だったことがこの CD34 によるものか、また効果はどのくらいあるのかなど、今後の研究課題も多いということですが、朗報です。

最新の移植の状況が「のぞみの会」の会報に載っていると、堀越先生が提供していただきましたので、コピーを同封します。

A 2 病棟では今月から週 2 回保母さんが来てくれて、子供の面倒を見てくれるようになりました。

A 2 は小さい子が多く面会時間が自由。あるお母さんは仕事を辞めて 1 日中付き添ってきたが、週 2 回でも保母さんが来てくれるようになって感謝しているということでした。

また B 1 でも保母さんに感謝しているという声が多くありました。保母さんありがとうございます。

看護婦さんへのお願い

子供の調子が悪いとき、夜の様子が分からないので教えてほしいとお願いすると、カルテに何も書いてなく、特に引き継ぎもないのでわからないと言われる。無菌室の時はなおさら一緒に泊まり込みたい気持ちを抑えて帰るので是非教えてほしい。

そう看護婦さんに話すと次から個人的に夜の様子のメモを母親に残してくれた。非常にありがたかった。

何もなかったとはいえ、「よく寝ていた」の一言で親は安心するものです。“親”と“看護婦”さんの間で交換日記のようなものが出来ないでしょうか。という提案がありました。

言いにくいこと、聞きにくいことも書けるのではないかとのことです。

夜は看護婦さんの人数も少なく、忙しいのはわかるが、たまにメッセージを残してくれる人がいて、そうしたちょっとしたメモがすごくうれしいという声は他にもありました。

そのほか、その日の担当の看護婦さんは親に教えてほしいという話もでました。

看護婦さん 頼りにしています。よろしく申し上げます。

「のぞみの会」総会が 11 月 10 日（日）午後 1 時から浜松のアクティで開催されます。詳しくは別紙の通りです。

会の間会員のお父さんが子供たちの面倒をずっと見ていて下さいました。大変助かりました。ありがとうございました。

次回の ほほえみの会 は 10 月 13 日（日）12 時からです